

3-5 第5回ワークショップ 一本発表会

秩父市長・豊島区長へ住民提案による『生涯活躍のまちづくり提案書』の提出、各チームによる政策提案発表、パネルディスカッションを行いました。

(1) 開催概要

-
- ◆開催日時：平成28年 12月10日（土） 午後2時00分～4時00分
 - ◆開催場所：豊島区役所 本庁舎5階 507～510会議室
 - ◆参加人数：47名（職員除く）
 - ◆次第：
 1. 豊島区長挨拶
 2. 『秩父市・豊島区 生涯活躍のまちづくり提案書』の提出
 3. 各チームからの提案発表（5チーム）
 4. 全体発表・まとめ報告
 5. パネルディスカッション
 6. 秩父市長挨拶
-

(2) 豊島区長挨拶

本日は「地方居住を考えるワークショップ」の成果発表会に多数ご参加くださりまして誠にありがとうございます。

先日、「秩父夜祭」を含む全国33の「山・鉾・屋台行事」がユネスコの無形文化遺産に登録されることが決定しました。長年の『姉妹都市』である秩父市が悲願を達成されたことを心からお祝い申し上げます。

このワークショップは秩父市と豊島区との「生涯活躍のまち」構想を実現するための第一歩として公募の豊島区民と秩父市関係者、そして立教大学と大正大学とのご協力により実現いたしました。

思えば、2年前、長年の友好姉妹関係にある秩父市と豊島区が共に消滅可能性都市と名指しされました。しかし、その指摘に対しては真摯に向き合い、私達は「地方との共



生」を対策の柱に据えて、お互いが共に発展していくにはどうしたらいいかを真剣に考えました。そして、秩父市と豊島区で生涯活躍のまちづくり構想を検討しようということになったわけであります。

7月23日の三菱総合研究所の松田智生先生の基調講演「ピンチをチャンスに変える、生涯活躍のまち～いつまでも輝けるひと～」をスタートに、7月30日には、現地見学ツアーとして秩父の魅力を探るべく秩父市の景勝地をまわりました。

8月20日にはグループワークの1回目として、「どうすれば姉妹都市としての交流が深まるか？」をテーマに皆様とアイデアを出し合いました。8月27日には「生涯活躍のまちとして、住みたくなるまちづくりとは？」をテーマにどうしたら住みたくなるまち、行きたくなるまちになるかを検討いたしました。

4回にわたった「地方居住を考えるワークショップ」で出された提案、検討に基づき、今回の成果発表会とあいなりました。

本日は、秩父市からは久喜邦康秩父市長もお見えになっております。参加者の皆さんから、秩父市と豊島区に対し「政策提案書」も出されると伺っております。ワークショップに参加された皆様から、どのような政策提案がなされるのか、成果発表とともに、とても楽しみに、そして期待をしております。

最後に秩父市と豊島区がますます発展していくとともにワークショップ参加者皆様のご健勝を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

(3) 『秩父市・豊島区 生涯活躍のまちづくり提案書』の提出

ワークショップでの成果を取りまとめた『秩父市・豊島区 生涯活躍のまちづくり提案書』が、グループワークでファシリテーターを務めた青木美恵さんから高野之夫豊島区長と久喜邦康秩父市長に提出されました。

高野区長は「秩父市とは、33年来の姉妹都市であり、この提案をひとつでも多く実現し、今後も友好関係を深めていきたい。」と話されました。



(4) 全体発表・まとめ報告



提案1 住まい・生活

～『多世代共生』様々なニーズに合わせた 住まい・コミュニティを形成～

- ▶ 各世代の生活ステージに合った多様な住まいと、健康・医療施設や子どものための遊び場等、その周辺環境を整備したい。それに併せて、老若男女問わず移住者と秩父市民がスムーズに受け入れるようなコミュニティを形成する。



2

【実現のための具体的な意見・要望】

- ・ 秩父市の家庭での「ホームステイ」を実施する。
- ・ 秩父市民と豊島区民が交流できる「シェアハウス」をつくる。
- ・ 空き家を活用した民泊を実施し、二地域居住（ウィークエンドシティ秩父）に繋げる。
- ・ 温泉宿泊施設や、高齢者向け住宅を充実させる。

秩父市民の8割以上の方が「移住受け入れ」に前向きな考えを示しています！



3

【実現のための具体的な意見・要望】

周辺環境も整っていると魅力もアップ!

- ・公共交通網のないところにボランティア民間ドライバーやコミュニティバスを手当し、「自家用車がなくても暮らせるまち」にする。
- ・秩父市の空き家情報をネットワーク化し、活用しやすいものにする。
- ・健康維持のためのスポーツ施設や教育施設、医療施設を充実させる。
- ・カフェ、食事処、スパ等「自由に使える、毎日行ける場所」を充実させる。



4

提案2 地域交流・活性化

～秩父&豊島の『地域資源』を活かし、
継続的な交流の輪を広げる～

- ▶ 小学校間の交流の場づくりなど、若者の出入りが増える取組みを強化する。秩父&豊島でコラボイベントを企画し、季節問わず豊島区民をはじめとする多くの人々が秩父へ訪れる施策を行う。「点の交流」から「線の交流」へと繋げることを目指す。



5

【実現のための具体的な意見・要望】

もちろん秩父市民の半数以上の方も「自然環境」や「地域文化」が秩父の魅力を感じています！

- ・秩父市に『としま区民果樹園』や『としま区民農園』を秩父市につくる。
- ・秩父市に豊島区民の誕生記念樹を植樹する場所を設ける。
- ・個人商店を再生し、『番場通り』等の商店街に活気をもたせる。
- ・池袋に秩父市のアンテナショップを設置する。
- ・遠足、林間学校、対抗運動会を秩父市で開催し、小中学校同士の交流の場をつくる。



6

【実現のための具体的な意見・要望】

秩父では、なんと年間で約300以上ものお祭りが開催されています！

- ・木工、銘仙織物等、秩父の伝統芸能を体験できる仕組みをつくる。
- ・『アニメの聖地』という共通点を活かしたコラボイベントを開催する。
- ・秩父市の『夜祭』等、歴史・文化イベントに豊島区民を招待する。
- ・『一日秩父市民・豊島区民』等お互いの日常が体験できる仕組みをつくる。
- ・秩父市で開催される様々なイベントに「豊島区民利用優待券」をつける
- ・西武鉄道に協力を依頼し池袋～秩父間を片道60分で行けるようにする。
- ・豊島区⇄秩父市間の高速道路を使ったバス便をつくる。



7

提案3 生きがい（働く・学ぶ）

～秩父だからできる！

誰もが活躍できる自己実現のまちへ～

- ▶ 移住者の多様な働き方を支援する仕組み、システムを構築する。生涯活躍できる仕事と出会える環境を整えていきたい。また、多世代が知的好奇心を満たすことができる様々なジャンルの学習環境を創造する。特に「学びの場」だけでなく、「教える場」もつくることで、活動の場を広げていきたい。



8

【実現のための具体的な意見・要望】

秩父市民の方々も「秩父市に新たな技術を導入してくれる人」「地元産業の後継者となる人」、大歓迎です！

- ・秩父ならではの仕事を創出する。（農林業、秩父ブランドの創造・開発）
- ・『ちちぶ企業体験プログラム』をつくる。（資金援助や、週末だけの利用、売り場のシェア等、セカンドビジネスにも対応できるような優遇措置をとる。）
- ・情報産業のサテライトオフィスで、移住しても働ける環境を構築する。
- ・豊島区民が秩父市の教育現場で講師ができる等の「教える場」をつくる。
- ・秩父市にサテライト大学をつくる。
- ・ネットを介して、様々な分野の高度な教育を受けられる環境を充実させる。



9

「3本の柱」実現に向けて!

～『姉妹都市』としての
情報発信・PR強化をする～



- ▶ 文化や自然など、お互いの魅力を相互に認識するための、情報共有と魅力の発信を強化し秩父の多様な魅力を「住みたくなるまち」、二地域居住、移住へと繋げていく。



10

【実現のための具体的な意見・要望】



- ・ 秩父の魅力を発信する専門のNPO法人等を設立し企業と連携して魅力を発信する。
- ・ 秩父と豊島がお互いにシェアできる媒体を作る（専用サイト・アプリ・SNSなど）
- ・ ラジオ局を開設して、秩父市の地域コミュニティを活性化する。

秩父の多様な魅力を発信し「住みたくなるまち」へ繋げる!



たくさんの方に秩父の魅力を
知っていただくために、秩父
市の情報発信を強化します!

11



1. 「多世代共生」様々なニーズに合わせた住まい・コミュニティを形成
2. 秩父&豊島の「地域資源」を活かした継続的な交流の輪を広げる
3. 秩父だからできる！誰もが活躍できる自己実現のまち

このように、私たちは3つの柱にまとめました。

秩父市民と豊島区民が交流できるホームステイの実施、「アニメの聖地」という共通点を活かしたコラボイベントの企画、秩父ならではの働く場をつくるなど、豊島区民と秩父市が「生涯活躍のまち」になれるよ



うな提案が多数挙げられました。さらに、これらの実現に向けて「姉妹都市」としての情報発信・PR強化をはかり、秩父の多様な魅力を「住みたくなるまち」、二地域居住、移住へとつなげていきます。

「共生のまちづくり」こそが『生涯活躍のまち』ひいては、秩父市・豊島区だけでなく「日本全体の元気」につながり、また、それが日本全体に広がっていくきっかけになることと、私たちは確信しています。

(5) パネルディスカッション

ワークショップに参加された秩父市・豊島区を代表する5名の方がパネラーとして登壇していただきました。本発表会でのまとめ発表も踏まえて、どのようにすれば秩父市が「生涯活躍のまち」として、豊島区とともに発展していけるかということについてご意見いただきました。

生涯活躍のまちづくりのポイントは「人」：岡修爾さん

今回のワークショップに参加し、秩父市には伝統工芸や祭り、自然など豊島区にないものがたくさんあることがわかった。また、「私にも何かできないか？」と好奇心を掻き立てられた。

夜祭での件も踏まえ、日本だけでなく世界が秩父に注目し始めることになる。「世界の中の秩父」として、どうまちづくりができるか、またこのまちづくりにどう「生涯活躍のまちづくり」

を盛り込んでいくか、これが上手く入り込んでいけば皆も「よし、ちょっと行ってみるか」となるのではないか。

生涯活躍のまちづくりのポイントは「人」であると感じた。ワークショップに参加された方でも良いし、もっと多くの方を巻き込んでいき、「点の交流」ではなく「線の交流」につなげていく施策を考案することが重要。そして、仲間がいてこそ「まち」は栄えていく。色々な情報を共有していくためにも、仲間づくりができる環境を整えていくことが望ましい。

また、例えば「リモートオフィス」を秩父市に作るのはどうだろうか。週3日は秩父市で仕事をする。特に女性が秩父でリモートオフィスで働きながら秩父で子育てもでき、週2日は区内へ通う。このようなことにもトライすることによって、人の交流というものを進めていっていただきたい。



いかに「本気になれる人」が現れるか：石森宏さん

私は、埼玉県熊谷市で1.5haの畑を18年間やっており、この経験も踏まえお話をさせていただきます。まずは、概念として樹木がある。樹木の下には根っこがある。根っこの部分はどうしても見えないため見落としがちである。この根っこの部分というのは土台となるわけだが、その部分を誰がやるのかということが私は一番大事だと思う。今日の話でも仕事がないと、特に高齢者、もちろん若い人も含めてだが、生きがいたとか希望だとか夢だとか、そして社会貢献したい等、やはりそれらの想いを叶えられるような仕組みが大事であると思う。

私の畑のすぐそばに、証券会社に勤めていた40代前半くらいの人が創業した「焼き芋屋たか」というお店がある。そして、5haくらいの畑にサツマイモを作っており、これは完全に第6次産業である。自分で育てて、作って、その場で売っている。この店には皆さんが行列して買いに来ている。そういう例もある。「こんなことも、やる機会があればできるのだな」と思った。

農業は収穫して整理して出荷するというのに最も時間がかかる。だから、農家というのはお年寄りが最も大事なのです。日向ぼっこしながらでも根っこを取ったり泥を落としたりというような作業が、実はお年寄りにはものすごく向くのではないかと私は思っている。私は、お年寄りは「非効率でよい」と思っている。時間がいくらかかっても構わないから良い仕事をしてほしいと。若い人は「効率的」にやらなければいけない。このように、お年寄りと若い人が上手く融合することができれば、何か面白いものができるのではないかと。

今取り組まなければならないこともあるが、100年先どんな風になるのかということを考えながら取り組んでいただきたい。我々も今回このようなワークショップがあり、様々な提案があって、これを「種まき」として将来どういうふうになるのかということじっくり考えて取り組むと良いと思った。それには、やはりリーダーシップをとれる人、または何しろがむしゃらにやる人が出てきてくれれば本当に実現するのかなと、私は思っている。

楽しく過ごせて、またリピーターで来れるまちに：廣瀬正美さん

私は東京出身で秩父に移住して25年目になる。25年間の感想言うと、秩父は非常に住みやすいまちである。やさしい人が多く、食べ物がすごく美味しい。コストが安い。星空や空気がきれい等やはり自然の魅力がある。

まず、皆様からのご意見のあった「空き家を活用しよう」という件についてお話します。9年前に「空き家バンク」の前身の「ちかいなか 秩父」ということを始めた。当時は建設不動産関係の人が集まって、この空き家に夢をもって二地域居住とい

うところから始め、だんだんとコミュニティが出来上がってきた。秩父市に「移住促進担当課」ができるということで、今までは産・官・学でやってきていたが、これからはもう少し広がっていき、色々なところにスポットが当たって仕組み化されていくと思っている。

次に、意見の多かった「働く面でのサポート」について。秩父には「ファインド秩父」というものがある。起業者を中心とし産・官・学に金融が入った連携事業として、これをワンストップでひとつの事業として成果を上げるまで取り組みましょうという流れのものを作っている。中小企業診断士や商工会議所も絡んで、ビジネスを成功させようというようなものである。これは、もちろん移住者にも利用でき、移住者が秩父でお店を出そうとしたときに、どんな事業計画をたてて、どんなものが売れていくかなどのアドバイスと数値管理もフォローしていくというような仕組みのものである。移住者される方へもきっとプラスの要素となるのではないかと思っている。

次に交通の面で考えているのは、東飯能駅を起点に、川越方面ですとか八王子方面へつなぎ、池袋と秩父を行き来できるというもの。この起点ができればビジネスの面、観光の面、学業の面においても広範囲な選択ができるようになるのではないかと思っている。

そして「生涯活躍のまちづくり」について。私が思う「生涯活躍のまち」というのは大阪にあるUSJにちょっと似たような「夢のあるまち」をイメージしている。楽しく過ごせてまたリピーターで訪れるという形を理想としている。また「癒しの空間」という要素を、秩父のまちづくりに取り入れることができれば面白いものになるのではないかと思う。

趣味と健康と仕事と自分スキルアップについて人間は欲があり、このバランスをどうとっていくかということが、これからの楽しく幸せな人生のポイントになると感じている。

「多世代」その中でも若者に期待：大島博明さん

私は、秩父は本当に魅力的な地であると感じている。秩父と豊島区はそれぞれ魅力的なところがあり、それぞれ逆のベクトルで動いている部分もあるので、組み合わせとしては素晴らしい関係があるのではないかと、そのようなポテンシャルを秘めた関係だと思う。

まず、秩父のことを話すと、夜祭も含め色々な良い点はあるのだが、なかなかその情報発信が上手くできていないため、トータルな情報発信というものが必要となってくると感じている。そのような中でも、最終的には「人」が情報をつないでいく必要がある。人がいつもつなぎ役になっていないといけない。例えば、今日参加している

皆さんがつなぎ役になって、秩父・豊島の両方の関係をつなげるようになればもっとよくなるのではないかなと思っている。2つのベクトルが「共生」というかたちでつながっていくことは良いことだと思う。

今の時代はスローライフといった感じで農業や自然体験など、若い人はこちらに目を向け興味を持っていると思う。豊島区のデータでもお年寄りよりも若者の方が移住に興味を持っているということを知り驚いた。なので、若者に期待をしている。

また、秩父と豊島を結ぶ西武鉄道にも協力してもらえれば理想的である。

「行く仕組み」を作ることが大切：菊池萌花さん

私が豊島区という地域に目を向けるきっかけとなったのは、千川にある高校に通うことになったのがきっかけである。コミュニケーション学科で、そこでコミュニティデザインという授業を受けたことで、まちづくりや地域活性化ということに興味をもった。そして、初めて秩父に行ったのは大学1年のときで、宿題で「一人旅に行く」ということがきっかけだった。西武線沿線に住んでい



たということもあり、目的場所を秩父に決めた。そのときにゲストハウスに泊まり、オーナーさんも一緒に住んでいる人もやさしく、大変居心地が良かった。この点が秩父を一番好きになった要因である。その後も何回も秩父に行ったが、いつも現地の人が優しく、秩父は良い人たちばかりだなというイメージ。豊島区に関しては、今通っている大正大学自体が地域活性化に取り組んでいる大学であり、区長を招いて豊島区の地域の現状等について授業をしていただいたことで、まちづくりの中でも「豊島区」という地域に関心を深めていった。豊島区の取り組みについて知っていくなかで「豊島区って良いまちだなあ」と思うようになっていった。

ただ、豊島区と秩父市が「姉妹都市」というのを知ったのは最近であり、やはりこの知名度が低いなと感じた。豊島区の伝統工芸品の「すすきみみずく」の材料となるすすきは秩父で作っていることなど、随所につながりを感じた。私は、お互いの地域に実際に行ってみることでその土地を好きになったので、やはりどんなきっかけでも良いから、まずは実際にその地域に行ってみることが大切であると感じている。なので、一番大切なのは「行く仕組みをつくる」ことだと思う。

(6) 秩父市長挨拶

今回の発表・提案を受けて私自身も大変勉強になった。ありがとうございました。

豊島区は若い人が多く、すなわちビジネスパーソンが多い。そして秩父市は何と言っても自然、そして豊島区とはまた異なった祭りなどの伝統行事、このような異なった環境の中で33年間も

「姉妹都市」という関係が続いているということは本当に素晴らしいことであると思っている。

そのような中で、今回の提案もあった「職員の交流」ですが、4月から区長様のご理解のもと、それが実行できるのではないかと考えている。情報発信という面においても、まだまだ多くの課題を

残しているなかで、秩父市の職員を豊島区に配置するというのを4月から具体的に実行できるのではないかと考えている。色々な交流を続けている中でも、まだまだ情報発信が弱いということで、私自身もケーブルテレビ等で秩父の魅力を発信していきたいと考えており、また区報や市報をもってお互いの様々な情報を発信していくことができればと思っている。また、井ノ尻住宅という市営住宅があり、ここの市営住宅は市民だけでなく豊島区民でも使える市営住宅となっている。これをまずは「二地域居住」の具体的な第一歩としてスタートしていきたいと思っている。

また、振り返ると今回のワークショップでも多くのことを勉強させてもらった。立教セカンドステージ大学の坪野谷先生をはじめ、受講生の皆様に心より感謝申し上げますとともに、ご参加されました豊島区民の皆様、また秩父市民代表ということで様々な方面から参加されました皆様に心から感謝申し上げます、豊島区と秩父市がこれからも長らく堅い絆で結ばれることを心から祈念し、協力させていただくことをお約束させていただきながら、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。



最後に市長と区長を囲み、参加者の皆さんで記念写真を撮影しました！